

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成二十七年度 理事候補者選挙 候補者一覧（届出順）

中村 正人	宇宙科学研究所	宇宙惑星科学	地球惑星科学は地球科学において生活と自然災害の関連が、惑星科学において国家主義の中でどの様に良いサイエンスをするかが問われています。理事としてこれらの事案に対して発言し、対処し、結果を出していきます。
ウォリス サイモン	名古屋大学	固体地球科学	JpGU の国際戦略の実施と更なる発展に貢献したい。取り分け、JpGU と協定を結んでいる他の学術組織との連携の強化や 2017 年に予定している JpGU-AGU ジョイントミーティングの成功を重視したい。
津田 敏隆	京都大学、 生存圏研究所	大気水圏科学	日本地球惑星科学連合が、国内の関連学協会と共存共栄を図りつつ、欧米・アジア・オセアニア・アフリカの研究コミュニティと連携して国際的視野で地球惑星科学の研究とアウトリーチ活動を推進することに貢献したい。
浜野 洋三	海洋研究開発機構	固体地球科学	日本の地球惑星科学コミュニティの活性化に向けて、毎年の活発な連合大会の開催と連合の将来プランを実現できる、堅固な事務局体制を作り上げることに貢献したいと思います。
原田 尚美	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	大気水圏科学	2014-2015 年の理事ならびに男女参画委員会（新：ダイバーシティ推進委員会）の役を務め、ようやく運営がわかりかけてきたところです。理事会の多様性を高めるためにも立候補させていただきました。
奥村 晃史	広島大学大学院 文学研究科	地球人間圏科学	地球人口の激増と生活文化の向上により、人間が食料や資源など自然の恵みを断たれるリスクや、自然災害・環境変動が生命や財産を奪うリスクは増し続けている。地球惑星科学の叡智を人類の生存と安全に一層活かしていくため連合を活性化していきたい。
北村 晃寿	静岡大学大学院理学 研究科・防災 総合センター	地球生命科学	古生物学，第四紀学，古環境学，層序学，堆積学，古地震学などの分野を有機的に結合し，地球惑星科学全体の振興と普及に寄与したい。

古村 孝志	東京大学 地震研究所	固体地球 科学	総務委員会活動を通して日本地球惑星科学連合の組織を一層強化し、国内関連学協会及び世界コミュニティとの連携の下、地球惑星科学の発展に貢献したい。
瀧上 豊	関東学園大学	地球惑星 科学総合	連合の事業の1つである地学・地理オリンピック関連の教育事業および教育検討委員会委員として次期学習指導要領における地学教育の策定や国際的な地球科学教育の推進に貢献したいと思います。
木村 学	東京大学	固体地球 科学	来る2年間は、初めてのAGUとの連携大会を成功させ、日本の地惑コミュニティーの国際化を飛躍させる時となります。アジアとの交流も同時に一層進め、未来を切り拓くために全力で臨む所存です。
井出 哲 (推薦)	東京大学	固体地球 科学	井出博士は、低周波地震の機構解明など、世界の地震学・固体地球科学をリードする業績を有するとともに、多くの学生の育成を通じてコミュニティーの発展に著しく貢献しており、若手理事として推薦するに相応しい。 推薦者1: 木村 学 推薦者2: 日比谷 紀之
近藤 昭彦	千葉大学 環境リモートセンシング研究センター	地球人間 圏科学	人と自然の良好な関係性をめざす地球人間圏科学の研究を推進します。
小田 啓邦	産業技術総合研究所	地球惑星 科学総合	日本地球惑星科学連合の国際化と発展に向けて、2017年連合大会の米国地球物理学連合との共催、ジャーナル出版事業等に積極的に取り組む所存です。
倉本 圭	北海道大学	宇宙惑星 科学	研究教育ネットワークの形成を通じた宇宙惑星科学の展開に貢献したいと思います。
田近 英一	東京大学	宇宙惑星 科学	地球惑星科学の広報普及活動を通じ、社会からの理解と関心を深めると同時に、次世代の育成につなげることで、これもJpGUの重要な使命の一つです。地球惑星科学コミュニティ全体の発展のため、より一層尽力する所存です。

川幡 穂高	東京大学 大気海洋研究所	地球生命 科学	地球惑星科学における世界の一極を担える Open Access 電子ジャーナル PEPS の確立, 特に AGU とのジョイントも含めた年会の充実を通じてこの分野の新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います.
小口 千明 (推薦)	埼玉大学	地球人間 圏科学	小口千明代議員は、男女共同参画に関する取り組みに力を注ぎ、2012年から2013年まで JpGU の男女共同参画委員会の委員長を務めてられました。その実績を活かし、理事会運営でも活躍いただけた人材であることから推薦いたしました。 推薦者 1: 高橋 幸弘 推薦者 2: 原田 尚美
西 弘嗣	東北大学 学術資源研究公開 センター	地球生命 科学	地球惑星科学連合では AGU との合同会議など、新しい国際化の活動を推進しています。このような連合のさらなる発展に微力ながら貢献できればと思います。
道林 克禎	静岡大学	固体地球 科学	JpGU がさらに発展していくために努力します。広報普及担当として、特に JpGU 大会における一般セッションを通じたアウトリーチ活動による JpGU のさらなる認知拡大を目指していきます。
日比谷 紀之	東京大学 大学院理 学系研究科 地球惑 星科学専攻	大気水圏 科学	日本海洋学会長として JpGU との関係をさらに強化していくとともに、AOGS セクションプレジデントや IAPSO 執行委員などの国際経験を活かすことで JpGU のさらなる発展に貢献していきたいと思っています。
安成 哲平	北海道大学 大学院 工学研究院	大気水圏 科学	米国での研究経験を生かし、また一若手研究者として、地球惑星科学系の日本の学生・若手研究者が、国際的に活躍でき、しかも安心してキャリアアップできるためのサポートシステムを若手の声を集約・反映しながら是非作りたい。
小口 高	東京大学	地球人間 圏科学	地形学と地理情報科学の研究者として、日本地形学連合では代議員、GIS セッションの開催、連合大会のスペシャルレクチャーなどを担当してきました。次期は理事としても連合に貢献したいと希望しております。
佐藤 正樹	東京大学 大気海洋研究所	大気水圏 科学	私は新ジャーナル PEPS の大気水圏科学セッションの編集委員長を勤め、連合学会において、3年間気象学会主催セッションを企画しました。PEPS や連合学会セッションの充実を通じて、関係学会との連携強化、連合学会の国際化に努めます。

畠山 正恒	聖光学院中学校高等学校	地球惑星科学総合	教育検討委員会の委員長の経験を生かして、今後とも地球惑星科学教育の発展と充実に尽力いたします。
北 和之	茨城大学	大気水圏科学	これまで連合大会運営および財務を中心に地球惑星科学連合の運営に携わってきました。これから、さらに国際的に活動を広げ、皆さんの研究活動の場として重要となっていく時期にあたり微力を尽くしたいと思います。
飯田 佑輔	宇宙航空開発機構/ 宇宙研究開発機構	地球惑星科学総合	連合は、地球科学という幅広い分野を取り扱い、国内組織ながらも国際連携に重きを置いていることに特徴があります。それを踏まえた対外イベント創設により、地球科学分野の成果・情報の社会発信に取り組みたいと考えております。
中村 昭子	神戸大学	宇宙惑星科学	JpGU の活動を通じて、地球惑星科学分野の研究活動の新しい広がりや深化、それを担う次世代の活動の基盤の整備や維持のために微力ながら貢献できればと考えます。